

# あなたの目で被災地みて

南二陸の  
ホテル支配人

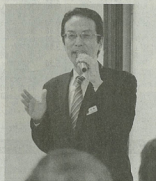
## 宿泊者に語り継ぐ

東日本大震災で被災した宮城県南二陸町のホテル「南二陸ホテル観洋」の米倉信一支配人(60)が10日、前橋市の県庁昭和庁舎で講演し、「未来の命を守るために語り継いでいくことが必要。被災地を忘れないことも支援になる」と語った。11日で震災から6年を迎えるにあわせ、警備会社や防犯設備会社などでつくる県防犯設備協会」が主催した。

### 「未来の命を守るために」

「皆さんの目で被災地を見てほしい」と呼びかける米倉さん(10日、県庁昭和庁舎で)

同町は津波で大きな被害を受け、死者・行方不明者は800人を超えた。米倉さんは当時の町の様子について、「戦後はこんな状態だったのかもしれないと思



った。被災物の山だった」と振り返った。同ホテルには一時、約600人の被災者が身を寄せていたという。震災の経験を語り継ぐと、同ホテルは震災の翌年から毎朝、宿泊者向けに「語り部バス」を運行。米倉さんや被災した従業員が同乗し、津波で職員ら43人が犠牲になった同町の防災対策庁舎などを巡りながら、自らの体験を伝えている。米倉さんは「語りかけるだけでなく、防災・減災に

ついて考え、最低限家族だけでも助けられる糸口になってほしいと願って話している」と思いを語り、「復讐」と呼びかけた。興していく被災地は1000年に1度の勉強の場。ぜひ皆さんの目でみてほしい」と呼びかけた。

2017/3/11

【読売新聞】